

Lend a Hand  
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ  
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

## Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2003-12-3 第632回例会 NO.14-21 2003-12-10 発行

◎司会 SAA委員会 田島真由美

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎国歌斉唱  
ロータリーソング「奉仕の理想」  
ソングリーダー 吉沢 洋景◎お客様紹介 会長 大松 誠二  
なし

◎会務報告 会長 大松 誠二

- 12月1日開催、第2750地区会長幹事会の報告。
- ・会員増強・退会防止についてのお願い  
当クラブとしても入会候補者の推薦と欠席者への声かけをお願いします。
  - ・セバスチャン・サルガド写真展について 回覧  
サルガド氏とマジリアベRI会長が展覧会のオープンの際に来日されました。ポリオ撲滅に関するロータリーの大きな行事ですので関心をお寄せ下さい。そして是非、会場に足を運び写真展をご覧ください。
  - ・地区大会への参加呼掛け 回覧及びガバナー月信掲載  
2004年2月25日・26日、新高輪プリンスホテルで開催されます。例会振替ですので是非参加をお願いします。来週、回覧で出席の是非をチェックさせていただきます。
  - ・国際大会への参加のお誘い、(吉沢国際奉仕委員長より説明)
  - ・ロータリー100周年記念ポスター・コンテストへの応募のお願い 資料回覧

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ・東京調布RCより例会変更のお知らせが来ています。
- ・回覧：ふくしだより/多摩市障害者美術作品展ブログ

ラム/ローターアクト広報誌

- ・日本ロータリー親睦ゴルフ全国大会のホストでいただいた謝金を米山奨学基金へ寄付し、財団法人ロータリー米山記念奨学会よりお礼状をいただきましたので回覧いたします。

## 【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 小林 正

- ・会員総数 44名
- ・出席義務者数 43名(出席免除者5名)
- ・出席者数 29名
- ・欠席者数 14名(事前MU2名)
- ・出席率 72.09%
- ・欠席者：赤尾 恭雄、藤原 正範、萩生田政由、  
桧垣 昭、平野 行廣、小泉 博、  
正房 正孝、佐伯 和廣、菅井 信夫、  
杉野志保子、高木 淳光、高野 範城、  
津守 弘範、由井 眞司
- ・補填MU：赤尾 恭雄 11/28 東京武蔵府中 RC  
津守 弘範 12/2 東京多摩 RC

11/19 最終訂正出席率 65.12%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 菊池 敏

- 大松 誠二 ロータリー情報委員会ご苦勞様。クラブフォーラムを楽しみにしています。
- 藤本 吉文 半年終ろうとしていますね。
- 小林 正 カレンダーも残り1枚になってしまいました。今年は良い年だったでしょうか・・・
- 北村 幸彦 今日は何もないけどニコニコ

本日の合計¥6,000(累計¥419,357)

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号  
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491  
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階  
【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30  
【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文  
【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝  
【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澁川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

◎国際奉仕委員会

委員長 吉沢 洋景

国際大会のクラブ内登録申込みを来週で締切りますが、登録ご希望の方は至急お申出下さい。なお、本日例会後、旅行の段取りを含めて説明会を開催いたしますのでご参集下さい。

◎親睦活動委員会

委員長 伊澤ケイ子

クリスマス例会の準備に着手しておりますが、本日、名簿を回覧の上、出席の意向を打診させていただきます。また、当日はビンゴゲームを予定しておりますが、予算外に個人的な賞品のご提供をよろしくお願いいたします。

◎3RCチャリティゴルフ 実行委員長 菊池 敏

本日、3RC合同チャリティゴルフコンペの組合せ表を配布いたします。開催当日(12月8日)はよろしくご協力をお願いいたします。



◎点鐘

会長 大松 誠二  
(例会担当：澄川 昇)

クラブフォーラム

テーマ：「あなたにとって、ロータリーとは？」

司会 ロータリー情報委員会 委員長 小坂 一郎

基調説明者：田中 實

宮本 誠

吉沢 洋景

海野 栄一

基調説明者より当クラブ創立以来の経緯とその過程での体験をベースとする各自のロータリー感を披露して終わる。(海野会員のみ説明メモの提示があったが掲載は省略。内容は録音テープにて1ヶ月間保存。)



ポール・ハリスを我々の心に！ Part 16

ロアリング川が耳を聳するばかりに音を立てて流れ出すと、間もなく春の大洪水の時期になる。祖母は昔の大洪水にまつわる愉快的な物語をポールに話してくれた。ロアリング川とオッター川の二つの川が、善人悪人の区別なく、地域に住んでいる人を全部飲み込んでしまおうという陰謀を企てたという。ところが、ノアさんというアメリカ人の金持ちが、箱船会社をつかって不正な両者の裏を掻こうとしたという。しかし、協力し合うべき陰謀団の内部で仲違いが起こり、悪事が露見して失敗してしまったという話のようだったが、祖母は細かい話までしなかったのでポールにはよく分からなかった。しかし、ポールの推測では、暴れん坊のロアリング川が一人で暴力を独占しようとしたので、常日頃おとなしいオッター川が堪忍袋の緒を切って、ロアリング川やその支流の水を全部チャプリン湖に流し込み、そこから水を貯水池に放流したので大洪水にはならなかったというのが話の結末だと思った。ともかく、谷間の住民達は、ロアリング川が乱暴な川で悪事を企んだ川であることを言い伝えていた。

みずみずしい緑に萌える草、良い香りのライラック、リンゴ、いわなし、タンポポや幅広の緑の葉をつけた黄色い桜草の花が一面に咲き誇る春は村人にとってとても待ち遠しいものだった。タンポポや桜草は料理すると食卓の珍味であり、これが雪と氷に閉ざされて6ヶ月間に消耗したビタミンの補給源だった。タンポポを採るときは靴屋が使うナイフと手鍋、桜草を採るときはバケツを持って意気揚々と出掛けて行った。

川辺に生えているオランダガラシは、タンポポや桜草が芽を出す前にもうすっかり緑に萌えていた。秋に植えておいたアメリカ・ボウフウは、氷の下の冷たい大地から養分を吸いながら越冬したお陰で良い味になっていた。祖父が数年前、庭の隅に植えておいた西洋わさびは、まだ霜が消えないうちからもう食べられるようになっていた。

ニューイングランドの主婦達は儉約家で、洗濯、皿洗い、床磨きなどに使う石鹸は家庭で作っており、石鹸づくりは家庭のお祭りの一つで子供達も楽しみにしていた。これは家庭経済の上でも重要な行事で経費節減に繋がった。計画の立案と労働力の提供以外は費用が掛からず、ニューイングランドでは、壺、瓶、鍋等がいつも清潔であり、床はいつも光り輝いていた。

(コーナー担当：赤尾恭雄)

「ロータリー知識」 入門編  
ロータリーについて 2 (私の考察 I)

入会したとき、表紙に「クラブ定款及び細則」の表題、中央にロータリーのエンブレムが印刷されている薄緑色の小冊子をもらいました。多分、この原稿を書くようなことにならなければ、内容を見る機会も余りなかったかもしれません。この表紙には、下部に「例会必携」とも記載されています。「必携」とは文字通りの意味からすると、「必ずたずさえていなければならないこと」ですから、この小冊子は、例会には持参しなければならないということになります。しかし、私(小田)の乏しい例会出席の経験からしますと、この小冊子を持参している会員の方は殆どいまいちに見受けられます。私も、この原稿を書くまでは、このような記載のあることを知りませんでしたので、いままで1回も例会に持参したことはありません。また、それで何か困ったということも皆無です。そのような訳で、この「必携」の「必」は「必要があれば」という意味かなと勝手に解釈しています。少々脱線気味になりましたが、本題に戻ります。

ロータリーの定款(Constitution)及びこれを補足する細則(By Laws)は、ロータリー組織の基本的な事柄を定めたものだとされています。定款は、R Iの標準定款によるべきこととされていますので、多摩グリーンRCの定款は、世界中のどこのロータリークラブの定款とも同じといって差し支えないのだらうと思います。したがって、多摩グリーンRCの定款の定め

ることがある程度理解できれば、ロータリーの基本的な事柄一般についても知ることができるということになるような気がします。また、R Iには推奨細則がありますが、クラブの細則はこれにとられる必要はなく、クラブの実情に応じて自由に定められることになっています。ただし、定款に反することは規定できません。その意味で、定款はクラブの基本法(国家でいえば憲法です。ちなみに、Constitutionには憲法の意味もあります。)であり、そこにはロータリーの基本精神、有り様、クラブ員の資格、義務などが盛り込まれているものと推察されます。

多摩グリーンRCの定款は全部で18条です。第4条に綱領が定められています。綱領とは、その組織の主義・主張あるいは目標とかを要約して示したものですから、ここにロータリーの基本的な考えが述べられているはずで、まず前文として「ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。」と記述されています。特に次の各項とある部分を除くと、ロータリーは、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成することを目的(目標、主義)とする組織(クラブ)」ということになります。この前文について次に考えてみます。

(コーナー担当：小田 泰機)

◆委員会だより◆

クラブ奉仕委員会

委員長 村上 久

今年度の方針に向かって邁進中ではありますが、会員増強が現状では厳しい状況にあり、『会員増強プロジェクト』の今一步の努力が要ると思います。『クラブ会報委員会』の目覚ましい活動について行くよう、他の関連委員会も頑張っていきたいと思っています。

(コーナー担当：正房 正孝・高木 淳光)

■ポール・ハリス語録■

私達の生きる目的は何でしょうか？

学ぶことです。

何を学ぶために生きているのでしょうか？

学ばなければならない唯一のことは、どうすれば自己にとらわれないようになるかということ。私達はそれを学ばなければなりません。学ばないわけにはいきません。ひとりで学ぶことができなければ、強制されるでしょう。遅かれ早かれ、私達は自己と決別せざるを得ませ

ん。最後の日を迎えるまで、自己にとらわれているかもしれない。あるいは自然に、徐々に、そうです、喜びをもって、自己と決別できるかもしれません。

18歳のとき、あなたは100パーセント、エゴそのものです。そうではありませんでしたか？単に自己中心であるばかりでなく、徹頭徹尾自分のことだけ考えていました。トーマス・カーライルによると、18歳で、人は嫌味の極致に達する、ということです。

それから、仕事に就きます。そして、あなたの自我が屈服します。次いで結婚します。結婚に伴い、あなたの自我はまた屈服します。そして幸い子供に恵まれましたら、その時までには、あの100パーセントのエゴで残っているものはほとんどないでしょう。自我との決別はこのように徐々に、自然に、喜びを伴いながら来ますので、あなたは自分の内部で何が進行しているかほとんど気付かないでしょう。それぞれの経験は、待ち望まれ、言い表しがたい喜びをもって期待されたものです。これは犠牲でしょうか？そうです、犠牲と呼ばれてきたかもしれません。あなたは、犠牲を払うという榮譽のために懸命に闘ってきたことでしょう。

これがごく自然な学び方です。あなたの母親も同じように学んできました。母親の人生は、あなたがよく知っている「無私の奉仕」という主義を最もよく表しています。最後の日を迎えたとき、屈服しなければならないものは、彼女にはほとんど残っていません。彼女には1パーセントのエゴしかありません。その1パーセントは、揺らぎながら消え去ります。しかし99パーセントは、これまで生きてきましたし、現在も生きています。これからも生きていくでしょう。

私達の生きる目的は何でしょうか？

学ぶことです。

何を学ぶのですか？

人生を学ぶのです。

人生から何を学ぶのですか？

人生から学ぶのは唯一のことです。——人生を送る中で、いかにエゴと決別するかを学びます。

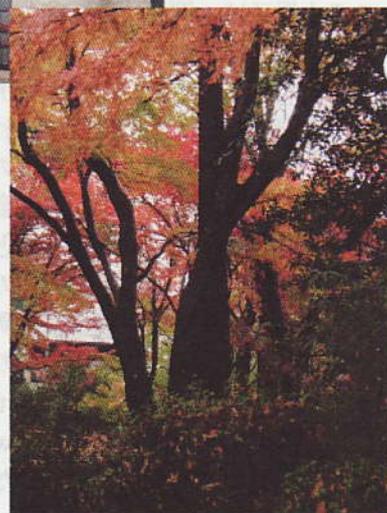
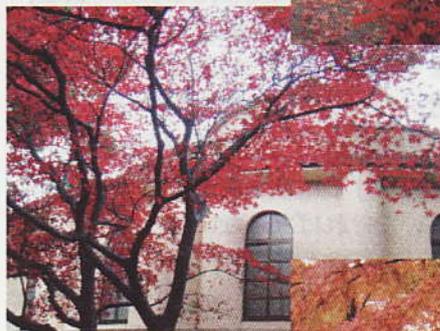
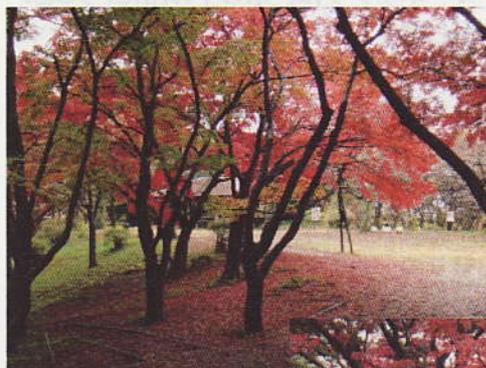
(ナショナル・ロータリアン 1912年7月号より)

(コーナー担当：赤尾 恭雄)



紅葉を求めて・・・

桜ヶ丘公園を歩いてみました。



2003. 11. 30 歩く。